

## 平成 30 年度 大阪国税局長賞

### 救急車で助けられた命

桜井市立桜井西中学校 一年 山本 鈴愛

税金にはたくさんの種類があり、私たちの周りの生活を支える事に使われている。私は税金については小学校六年生の時に習ったことがあるが、普段あまり意識していなくて、今回この作文を書くにあたり、税金の大切さを改めて感じた。

私が一番身近に感じた事は救急車に税金がつかわれていることだ。私の祖父は2年前に脳内出血で倒れた。家族が気づき、すぐに救急車を呼び、病院に運ばれた。すぐに処置がされ、一命をとりとめることができた。祖父は、その後のリハビリで回復し、少し左手のしびれは残っているものの、自分の足で歩いて退院した。担当していた脳外科の医師は、この症状で倒れて、自分で歩いて退院した人は初めて見たと言った。みんな奇跡が起きたと言った。それは祖父の生命力や、医師の治療のおかげでもあるが、まずは要請からすぐに出動し、すばやく祖父を病院に搬送してくれた救急車と救急隊員の存在のおかげでもある。私はその時はまだ税金について何も知らなかったのだから、ただ感謝する気持ちだけだったが、後になり、救急車には税金が使われている事を知って驚いた。みんなの税金に支えられて、祖父は助けられたのだ。

今、日本では救急車をタクシー代わりの呼ぶ人たちがたくさんいて、社会問題になっているそうだ。昔、母が働いていた病院でも軽いケガや病気なのに、毎月何回も救急車を呼び、診察を受けに来る人がいたそうだ。救急車を呼ぶ理由は、自家用車がない、タクシーがつかまらなかった、すぐに診察を受けたかったなどあるようだ。私はそれを聞いて、大人なのに、自己中心的な行動だし、格好悪いと思った。これは税金のムダ遣いだと思う。日本では救急車は無料だが、これは当たり前のことではなく、アメリカなどでは一回出動するのに、数万円を患者が自己負担するそうだ。日本は恵まれていると思う。だからこそ、ひとりひとりが意識を高く持てば、救急車をタクシー代わりに呼ぶなど、こんなことは起こらないと思う。救急車の数は限られているので、誰かが無駄遣いをしている間に、本当に命にかかわる危険性のある人が救急車を呼んでも、出動出来ず、そのまま命を落としてしまう可能性もあると思うので、決してあてはならないことだ。

私が今学校に通えているのも、病気になった時、低価格で治療をうけられるのも、税金のおかげだ。今私にできることは、しっかり勉強し、豊かな生活を当たり前だと思わず、感謝する事だ。そして、私が社会人になって、自分でお金をかせぐようになったら、きちんと税金を納められる人になりたいと思う。